

第5回「イオン未来の地球フォーラム」開催 いま次世代と語りたい未来のこと —ポストコロナの持続可能な未来—

公益財団法人イオン環境財団(理事長 岡田 卓也 イオン株式会社名誉会長相談役)、東京大学未来ビジョン研究センター(センター長 藤原 帰一)、フューチャー・アース(日本ハブ事務局長 春日 文子)は2月6日(土)に第5回「イオン未来の地球フォーラム」をオンラインにて開催します。

本フォーラムは、全5回にわたり、地球の環境変化に伴う自然と人間社会における問題について、最新の科学的知見をわかりやすく解説するとともに、解決すべき課題と方法について、参加者の皆さまとともに考え議論する場です。2017年から「いま次世代と語りたい未来のこと」というメインテーマのもと、持続可能な地球社会の実現を目指す国際研究機関である「フューチャー・アース」と連携し、民間団体として世界で初めてイオン環境財団が主催いたしました。これまでの4年間で、のべ35名のスピーカーが登場し、約2,500名の皆さまが参加しました。

最終となる今回は、「ポストコロナの持続可能な未来」をテーマにし、社会の新たな有り方について、専門家による基調講演に続き、次世代を担う代表として3校の高校生も交えパネルディスカッションを実施します。

三者は、今後もグローバルな課題解決のため、環境教育をはじめとした様々な環境活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日 時	2021年2月6日(土)13:00~17:00 オンライン開催	
主 催	公益財団法人イオン環境財団・東京大学未来ビジョン研究センター・フューチャー・アース	
後 援	環境省・外務省・日本学術会議・国立研究開発法人国立環境研究所・大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所・公益財団法人地球環境戦略研究機関・フューチャー・アース日本委員会	
テ ー マ	いま次世代と語りたい未来のこと —ポストコロナの持続可能な未来—	
登 壇 者	東京大学 総長 東京大学未来ビジョン研究センター 特任教授	五神 真 武内 和彦
	京都大学 前総長 基調講演「自然と人間の関係を問い直す」	山極 壽一
	東京大学未来ビジョン研究センター 教授 基調講演「よりよい未来に向かう復興」	高村 ゆかり
	国立情報学研究所 所長 東京大学 教授、総長特別参与 (デジタルデータ活用) 基調講演「実世界からサイバー空間へと人間活動の場をシフトさせた COVID-19」	喜連川 優
	神奈川県政策局 SDGs 推進担当部長 公益財団法人地球環境戦略研究機関 コミュニケーション・共創担当ディレクター フューチャー・アース国際事務局 日本ハブ事務局長 東京大学未来ビジョン研究センター 教授 公益財団法人イオン環境財団 専務理事	太田 裕子 大塚 隆志 春日 文子 梶川 裕矢 山本 百合子
	千葉県 渋谷教育学園幕張高等学校 三重県 県立四日市高等学校 岡山県 山陽学園高等学校	

(敬称略)

以上

<フォーラムの詳細・エントリーは下記URL又はQRコードから>

https://www.pco-prime.com/5th_aeon_futureearth/



【本件に関するお問い合わせ先】 公益財団法人イオン環境財団 ザリナ 電話:043-212-6022

ご参考

■これまでの「イオン未来の地球フォーラム」

第1回は東京大学武田ホール、第2回～第4回は東京大学大講堂（安田講堂）にて開催いたしました。参加者の皆さまとともに、現在発生している環境課題について共有し議論をしてみました。

回数	開催日程	テーマ
第1回	2017年2月25日	「地球と人の健康」
第2回	2018年1月20日	「持続可能な消費と生産」
第3回	2019年2月2日	「自然の恵み」
第4回	2020年2月1日	「海の環境と資源を守る」



第4回 イオン未来の地球フォーラム
（安田講堂）

【東京大学未来ビジョン研究センター】

東京大学未来ビジョン研究センター（IFI）は、2019年4月、政策ビジョン研究センター（PARI）と国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構（IR3S）の両部局が発展的に統合する形で設置されました。IFIは、持続可能な未来社会を創造するために、未来社会の諸課題に関する政策・社会提言ならびにそのための社会連携研究を行っています。また未来社会に関連する大学の知見を統合する国際ネットワーク・ハブおよび産官学民との協創のプラットフォームとしての役割を果たし、研究に基づいた未来社会を実現する選択を示すとともにそれを担う人材の育成にも貢献します。

＜IFIホームページ： <https://ifi.u-tokyo.ac.jp/>>

【フューチャー・アース】

フューチャー・アースは、2015年に設立された、持続可能な地球社会の実現を目指す国際協働研究プログラムです。「人類が持続可能で公平な地球社会で繁栄する」というビジョンの実現に向け、研究とイノベーションを通して、世界中が持続可能な社会へと転換していく流れを加速させることをミッションとしています。海洋や大気、生物多様性、リスク、都市、健康などの研究やSDGsへの科学的貢献において、世界の先駆的な研究拠点と社会の実務者が一つのネットワークとなって協働しています。

＜フューチャー・アース日本語ホームページ： <https://ifi.u-tokyo.ac.jp/units/futureearth/>>

【公益財団法人イオン環境財団】

1990年「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと設立され、本年で31年を迎えました。時代とともに変化する環境課題に応じた事業を継続実施しており、現在は「イオンの森づくり」・「助成」・「環境教育」・「パートナーシップ」の4事業を中心に、各地域のステークホルダーの皆さまとともに環境活動に取り組んでいます。

＜公益財団法人イオン環境財団ホームページ： <http://www.aeon.info/ef/>>

■環境教育「アジア学生交流環境フォーラム」

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的としてアジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする「アジア学生交流環境フォーラム」を実施しています。これまでにアジア10カ国の約600名の大学生が参加しました。8回目の2019年は「持続可能な平和のため」をテーマに、カンボジア・プノンペンとシエムリアップで開催し、王立プノンペン大学（カンボジア）・清華大学（中国）・インドネシア大学（インドネシア）・早稲田大学（日本）・高麗大学校（韓国）・マラヤ大学（マレーシア）・ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）・チェラロンコン大学（タイ）・ヤンゴン経済大学（ミャンマー）・フィリピン大学（フィリピン）の大学生80名が参加しました。



第8回 カンボジアシエムリアップ

■環境教育「リモート・センシング技術を活用した取り組み」

イオン環境財団は、2019年に一般財団法人リモート・センシング技術センターと連携協定を締結し、持続可能な地域づくりの実現に向けリモート・センシング技術を活用した様々な取り組みを実施しています。そのひとつは、環境教育です。これまで、リモートセンシング技術を活用した衛星画像データにより、森林減少、地球温暖化などさまざまな環境問題を把握、理解し、地域の持続的発展のための解決案を考える環境教育を実施してまいりました。

また最近では、植樹後の森の状態を把握するため、ユネスコエコパークとして登録されている宮崎県東諸県郡綾町にある「綾町イオンの森」にて2020年12月に炭素蓄積量の調査を実施しました。綾中学校1年生64名が参加し、それぞれ位置情報取得可能なタブレットを携えてイオンの森に入り、ドローン観測画像を確認しながら調査対象の樹木を探し、樹種、樹高、幹の周囲長を測定してタブレットのアプリに記録しました。調査後、タブレットに記録された測定結果とドローン観測画像から取得した情報を合わせ、森全体の炭素蓄積量を算定しました。本活動を通じて、「測る」ための仕組みとその情報化、そして森づくりの大切さについて学習しました。

なお、綾町と当財団では「イオンの森づくり」として「植える」「育てる」

「活かす」活動に取り組んでいます。2013年～2015年の3年間に、中学校校舎の建て替えのため伐採された町有林跡地に、地域に自生する樹種15,000本を植樹しました。また、2017年から2019年までは、人と自然の共生を目指すユネスコエコパークらしい森に整備するため、5,200本の植樹を行いました。その他、森林を中心とした環境教育にも取り組んでいます。



エコプロ 2019 ミニ環境教室



炭素蓄積量の調査



綾町(2019年)



植樹地から伐採された木材で
建設された綾町立綾中学校



ユネスコエコパークセンターでの
環境教育

*リモートセンシングとは、人工衛星、ドローンなどに搭載した観測機器(センサ)を使い、離れた位置から地球表面等を観測する技術です。植生、土壌や大気の水分量、地表や海面の温度、地表面の変位など地球環境を把握するための様々な情報を得ることができます。